

◇ 学校通信 ◇

令和 7 年 12 月号

桶川市立加納中学校

# 加納中だより

<http://www.okegawakanou-jh.ed.jp/netc/htdocs/>

《校訓》自主の風

《学校教育目標》

きらめく心、光る汗

生徒数 356名

## 「行事と感動経験」～個々の成長と仲間との絆～

校長 矢澤 等

「2学期は行事の学期」と言われます。本校でも、今学期には「文化発表会」や「校内音楽会」、部活動の「新人戦」や「アンサンブルコンテスト」などの行事が行われ、生徒たちの一生懸命に取り組む姿をたくさん見ることができました。特に、最高学年である3年生の発表は、下級生たちの心を動かす素晴らしいものであり、それが伝統となって引き継がれていくことと期待しています。多感な中学生に「感動経験」を味わわせ、そこから様々なことを学び取ってほしいと考えています。

「人間が劇的に生まれ変わるきっかけは、感動経験が一番である。」というお話を聞いたことがあります。心の底から嬉しい、悔しいと感じる思いをしてこそ、日々の努力の大切さや自身の未熟さを実感し、行動を改めるきっかけにすることができるという意味なのかもしれません。生徒たちに「感動」を味わわせるには、目標をしっかり持たせることはもちろん、日々の取組の過程を大事にさせていきます。

本番当日だけではなく、与えられた準備期間で、どれだけ本気で全力で臨めたかを大切にさせたいです。私たち大人の役割として、「本気にさせる」「全力で臨ませる」ためのモチベーター（やる気を起こさせる人・心に火をつける人）でありたいと思います。緊張で日頃の力を発揮できない生徒に、「強気で!」「落ち着いて!」と声はかけますが、それを乗り越えなくてはならないのは生徒自身です。練習の場面から、真剣な雰囲気を作り出し、本番に力を出し切れるようにしていきたいです。

また、生徒たちは、互いに励まし合うことで仲間の存在のありがたさも学んでいきます。今学期の学校行事の中で、生徒たちが仲間同士で飛び上がって歓喜する姿や、共に悔し泣きする姿を何度も見てきました。学校生活の中で、そうした体験ができることは何度もあることではありません。感動経験を味わい、生徒一人一人が成長し、仲間との絆を深めることができるように、今後も学校として取り組んでまいります。



### 人とのかかわりの大切さを学ぶ月間

埼玉県では、11月を「いじめ撲滅強調月間」に制定し、いじめ問題の根絶に取り組んでいます。また、12月は、12月10日（人権デー）を最終日として「人権週間」が設けられています。学校でも、人とのかかわりの大切さを考える期間とし、どの生徒も安心して生活できる環境を作っていくよう取り組んでいます。全校朝会や道徳の授業を中心に、全ての教育活動を通して、いじめや差別を許さない、見過ごさない学校風土を作ってまいります。

保護者の皆様にも「生活アンケート」等でご協力をいただきありがとうございました。今後も、ご家庭とも連携を図ってまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。